クラウド着手・運用引き継ぎ点検表

アカウントの引き継ぎから復旧試験まで、引き継ぎの完了を証拠で確認する様式

導入の判断と実行のためのIXC実務資料

2026.09 発行 · 日本語版 · PDF + Excel記入様式

この資料の活用

運用移管の際に資産・権限・連絡・復旧の漏れを見つけ、引き継ぎの完了条件を決めます。

クラウド契約後に着手会議を準備する担当者、運用を引き継ぐ責任者

目次

01 資産の所有者と業務を結び付けます 3

02 権限は実際の操作で確認します 4

03 引き継ぎの証拠と未決事項の記録表 5

04 復旧と変更を一度実行します 6

記入と活用

PDFの基準を読み、空欄に実際の条件と未確認の項目を記入します。同じ部門のExcelには資料ごとの記入シートがあります。記入例は、実際の顧客事例や確定した見積もりと区別してお使いください。

出典を明記すれば、社内検討と業務遂行のために引用・改変してご利用いただけます。最新のファイルは www.ixc.co.kr/ja/assets でご確認ください。

資産の所有者と業務を結び付けます

引き継ぎは、アカウント一覧を受け取るところから始まります。運用する業務、管理場所、費用と権限の所有者が、同じ表でつながっている必要があります。

サービス名を基準に、本番・検証・開発の環境を分けます。各環境のサーバーとデータベースに加え、ドメイン、DNS、証明書、リポジトリ、デプロイ経路、外部連携も含めます。資産の管理画面に接続して存在と環境を確認したうえで、引き継ぎ状態を記入します。個人名義のアカウントや退職者の連絡先が残っている場合は、担当部署と変更日程を決めます。

引き継ぎ区分	確認する内容	確認の証拠
サービス・環境	業務・重要な時間帯・環境の区分	構成図・接続確認
アカウント・請求	名義・請求書の受取先・更新担当	アカウント設定・請求明細
ドメイン・証明書	登録・DNS・更新の場所	管理場所・有効期限の一覧
デプロイ・ 外部連携	リポジトリ・デプロイ権限・依存サービス	実行記録・連携一覧

> **最初の会議で残す決定**
>
> 漏れのある資産を削除したり推測で埋めたりしません。所有者未確認・アクセス不可・文書不一致に分類し、確認担当と完了日を決めます。引き継ぎ範囲が変われば、構成図と一覧を併せて更新します。

権限は実際の操作で確認します

画面にログインできることと、必要な措置を実行できることは別です。日常の運用と緊急時の復旧で必要な権限を、それぞれ検証します。

- 参照・変更・承認の権限を業務ごとに分けます。費用の参照権限と運用の変更権限を併せて付与する必要があるかを確認します。
- 共用アカウントではなく、担当者を識別できるアクセス方式を決めます。追加・変更・回収申請の承認者を記録します。
- 認証情報の値は引き継ぎ文書に書きません。保管場所、アクセスできる役割、ローテーション担当、最終確認日を記録します。
- 緊急アクセスは、使用理由と終了後の回収手順を併せて決めます。試験は承認された環境と範囲で行います。

記入例：運用担当者はモニタリングを参照できますが、データベースの復旧作業は実行できません。この状態は単なるアクセス権の漏れではない可能性があります。復旧の承認後に別の役割を付与する運用方式なのか、別のチームが実行するのかを先に確認します。必要な権限と承認手順を結び付けたうえで、引き継ぎ完了とするかを判断します。

> **権限検証の完了条件**
>
> 承認された試験作業が成功し、作業の実行者と履歴が残っている必要があります。既存担当者の権限は、新しい担当者のアクセスと運用準備を確認したうえで回収の順序を決めます。

引き継ぎの証拠と未決事項の記録表

文書の受領、アクセスの確認、試験の成功は、それぞれ別の状態として記録します。引き継ぎ会議で空欄をそのまま読み上げれば、次の担当と期限を決められます。

クラウド引き継ぎ確認ワークシート

確認する質問	必要な証拠	状態・証拠の場所	担当・期限
本番環境と資産は一致していますか？	構成図・資産の照合結果		
緊急連絡は実際につながりますか？	連絡試験・代替連絡先		
バックアップから業務を復旧しましたか？	復旧試験・業務確認結果		
変更を切り戻す準備はできていますか？	デプロイ・設定切り戻し記録		
終了時に引き継ぐ項目は決まっていますか？	返却一覧・所有者表		

状態は「未受領」「検証中」「確認完了」「要補完」で記録します。「バックアップあり」は復旧試験の完了を示すものではありません。記録には試験日、対象データ、復旧環境と業務確認者を残します。本番データへのアクセスが制限される場合は、承認された試験データで手順を検証し、実際の本番復旧と異なる条件を未決事項に書きます。

> **条件付きの引き継ぎ**
>
> 重要業務の未決事項ごとに、暫定対応と解消担当を決めます。暫定対応のない復旧・連絡の空白は引き継ぎ完了と記録せず、着手責任者に処理日程を報告します。

復旧と変更を一度実行します

最初の運用周期に小さな変更と復旧試験を組み込めば、文書と実際の環境の違いを見つけられます。業務が正常かを確認する担当者も参加します。

検証段階	実施項目	残す記録
準備	対象・作業枠・承認・中止条件の確定	試験計画・連絡表
実施	バックアップからの復元または承認済みの設定変更	実行時刻・作業結果
業務確認	ログイン・照会・主要取引の検証	担当者の確認・エラー一覧
終了	原状復帰・権限整理・文書更新	最終状態・後続課題

RTOは復旧までに許容する時間、RPOは受け入れられるデータ損失の範囲です。バックアップ周期と復旧試験の結果を、この二つの基準と照らし合わせます。システムの起動だけを確認すると、外部連携やデータ整合性の問題が残ることがあります。実際の運用移管では、連絡経路と変更承認も同じ試験に含めます。

引き継ぎ終了会議

完了の証拠と残る補完項目を検討したうえで、運用開始日を決めます。IXCはインフラ構築に続けて運用代行も担い、資産・デプロイ・アクセス・バックアップの資料をもとに引き継ぎ範囲を協議します。

発行・ご利用について

現在の構成図と引き継ぎ表、バックアップ・復旧の記録をもとに、アクセス権と運用移管の範囲をともに決めます。

IXC Corp.（アイエックスシー）

代表取締役 ナム・ギチョル | 事業者登録番号 109-86-56732
大韓民国 江原特別自治道春川市後石路462番キル7
春川ICTベンチャーセンター4階408号
+82-33-242-0210 | info@ixc.co.kr

www.ixc.co.kr

www.ixc.co.kr/ja/services/managed-cloud

www.ixc.co.kr/ja/assets/cloud-kickoff-checklist

参考資料

IXC クラウドインフラ構築

https://www.ixc.co.kr/ja/services/cloud-infrastructure-build

IXC マネージドクラウド

https://www.ixc.co.kr/ja/services/managed-cloud

Google SRE Workbook: Incident Response

https://sre.google/workbook/incident-response/